

日本チェンバロ協会の年度見直し、及びそれに伴うお知らせ

2014年が始まりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、日本チェンバロ協会の活動は、昨夏に行なわれた第2回総会で、会期の変更が決定され、今期のみ7月から3月までという短い期での運営となりました(詳しくは第2回通常総会報告をご覧ください)。会員の皆様に少しでも協会の活動が充実したものに感じていただけるように、毎月行なわれる運営委員会では様々な例会の企画、ホームページやツイッターなど広報活動の充実など、いろいろな知恵を絞っております。ぜひ会員のみなさまもご提案、ご意見をお寄せください。また、今年は会長選挙の年に当たっており、選挙管理委員会が発足いたしました。詳しくは次ページをご覧ください。それでは、今年も当協会をよろしく願いいたします。(副会長 大塚直哉)

日本チェンバロ協会 第2回通常総会報告

運営委員 岡田龍之介

去る2013年8月4日11時より、世田谷の松本記念音楽迎賓館Bホールにおいて日本チェンバロ協会の第2回総会が実施された。同協会の総会としては2012年7月22日の第1回に続き2回目に当たるが、前回は2011年協会発足以来の準備期間を踏まえての総会ということで暫定的な内容にとどまらざるを得なかった部分もあるが、今回は協会の組織、活動もそれなりに定着し、対外的にも認知度を高めつつある中での開催と言うことで、実質的には初の本格的な総会となった。当日出席者は14名、委任状の提出が56通で計70名分となり、総会成立の条件である定足数－会員の3分の1以上－を満たすものとなった。大塚副会長の開会の挨拶に続いて、運営委員の中から議長・岡田、書記・渡邊(温)が選出され審議に入った。

今回の総会では以下の5件の議題が取り上げられた。

- 1 2012年度 事業報告
- 2 2012年度 決算および会計監査報告
- 3 会則の変更について
- 4 2013年度 事業計画
- 5 2013年度 予算案

1については加久間委員より、今年度の協会の主催／共催活動として、a 会長、副会長、運営委員の選出などを決議した総会、b 総会後に行われた楽器製作家を招いての座談会「我が国のチェンバロ製作の曙と現在」、c 主催事業「チェンバロの日! 2013～いろいろなチェンバロ」、d 特別例会(第2

d 特別例会(第2回例会)「通奏低音の学び方～フランシス・フィッチ氏をお迎えして～」、e 第1回例会「チェンバロと私」～小林道夫氏を囲んで～(前項と数字が逆転しているのは、こちらの第1回の実施が決まった後でdが行われることになったため)、f 第3回例会・演奏と交流会「A.ハッキネン氏を迎えて」、g 共催「G.ウィルソンチェンバロ公開講座」、h 共催「チェンバロの日! IN大阪」等の諸事業が行われた旨、報告された。

2は、会計を担当した小川委員より昨年度の一般会計の収支決算報告がなされ、それが監査担当の宮崎氏より承認された旨、出席者により了承された。



総会風景

3は、昨年度制定された日本チェンバロ協会会則が、協会の運営状況に鑑み現状にそぐわない部分が出てきているとの運営委員会での反省に基づき、今回の総会での審議が検討された。大塚副会長から今回改正される若干の条項の説明と改正に至る経緯が述べられ、それらが出席委員によって了承された。変更点をかいつまんで以下に列挙する。

- a 第1条 会の事務局の所在地が移動した
- b 第2条 会員の中に研究者も含まれることになった
- c 第4条 従来の個人会員A・Bの代わりに正会員・一般会員、団体会員C・法人会員Dの代わりに法人・団体会員という名称を用いることにした
- d 役員に関しても、人数・任期等に関して若干の変更が加えられた(協会の活動が安定するまで、その核となる委員が頻繁に交代するのは望ましくない、という大方の判断を反映)
- f 会費に関しても一部見直した
- g 第17条 会計年度を従来の7/1~6/30というサイクルから4/1~3/31というサイクルに変更した(5月の「チェンバロの日」に総会を開催できるように、などの理由から)

4では、協会主催事業「チェンバロの日 2014」が来年5/5, 6両日、松本記念音楽迎賓館で開催されることが決まった旨、確認された他、年3回程度の例会の実施、地方での例会開催の可能性についても言及があった。

なお会計年度が変更になったこともあり、従来の区分では新年度に当たるこの8月から、来年4月の新”新年度”に移行するまでの期間にひとつ、特別例会のような形で協会主催事業を設けてはどうか、との会員からの提案があり、こちらも年明けの時期を目処に実施すべく今後前向きに検討していくことを確認した。

5は、副嶋委員より、前年度の繰越金と会費収入を元に来年度の予算案が提示され了承されたが、その際に、従来協会の事務代行を担当してきた想楽舎の立替金が、7月1日付けで協会より完済された旨報告された。

以上の議題に関する審議の他、4の主催事業との関連で、会員の望む例会の内容や、地方在住の会員の声を反映させるべくアンケートを実施してはどうか、あるいは協会員向けの割引の対象を増やしてはどうか(会場費の割引や演奏会チケットの割引など)等の意見も出された。そして最後に副会長の閉会の辞によって、一時間半ほどの会は滞りなく終了した。協会の運営には未だに多くの難問をかかえるものの、昨年の総会からほぼ一年を経ての今回の第2回総会、徐々にではあるが体制が固まってきて、活動が軌道に乗り始めているのを実感した次第。引き続き会員の皆様のご協力・ご尽力をお願いしたいと思う。

(岡田龍之介)

会長選挙のお知らせ

次回の総会(2014年5月5日)を以て小林道夫現会長の任期が切れ、会則に従い、会長選挙を行うこととなります。つきましては、会長選挙にあたっての選挙管理委員会を発足させることとなりました。

選挙管理委員は以下の三名です。

久保田 彰 氏

桑形 亜樹子 氏

及川 れいね 氏

※今後はホームページ上、書面等でお知らせ致します。

協会主催行事

「チェンバロの日!2013 色々なチェンバロ」報告

日時:2013年5月3日・4日

場所:松本記念音楽迎賓館

東京・世田谷の「松本記念音楽迎賓館」にて開催された主催行事は、無事に終了いたしました。予想を上回るお客様のご来場があり、運営員一同、感謝の気持ちでいっぱいです。昨年はチェンバロ奏者第1世代に焦点を当てましたが、今回は日本の製作家によって作られた多種多様なチェンバロをクローズアップし、多角的にこの楽器を掘り起こし、皆様にご紹介したいという目的で計画されました。そしてこの館に置かれているプレイエル社のランドフスカ・モデル・クラヴサンと共に、チェンバロ8台、最初期のフォルテピアノであるクリストフォリ・モデル、鍵盤付きダルシマー(アルノー・モデル)を加えた11台の楽器が勢揃いし、数年前には考えられないような大変贅沢な、そして充実した催しを開催する事が出来ました。

持ち込まれた楽器は数台ずつ3つの部屋に置かれ、それぞれチェンバロ奏者による有料演奏会、楽器説明、試奏タイム、また、チェンバロ学習者によるフリーコンサートの開催、ランドフスカ・モデルが置かれた部屋(サロン)では所有者みずからによる楽器解説とランドフスカにまつわる話(対談形式)が、



アルノーとクリストフォリ

そしてDVD鑑賞、SPレコード鑑賞等が行われました。この館の奥まったところにあるCホールではチェンバロの模型見学、物販(アカデミア、ユニヴァーサル)も行われ、さらに、日本式庭園にあるお茶室では、先着40名限定(有料)でお抹茶が体験出来るサービスも館側でご用意頂き、天気に恵まれた2日間は、絶好のいやしの場にもなりました。このような各部屋ごとに分かれた催し以外、置かれた楽器すべてを解説付きで巡る「演奏付きガイドツアー」、交流の場となる「懇親会」、2日目は、日本のチェンバロ製作史を振り返る「座談会」も行われ、チェンバロという楽器の歴史、そして、我が国での製作の曙と現在、そしてこれからを考える、という重要な課題も多くの方と共有する、という貴重な時間を持つ事が出来ました。

次回は来年度、2014年5月5,6日松本記念音楽迎賓館にて行われます。(➡P.6ご参照ください。)



初期鍵盤楽器の部屋



楽器の話をする横田氏



色々な楽器を試奏



座談会の様子



懇談会



ジャーマンとイングリッシュ

主催行事

～例会報告と予告、および通奏低音講座のお知らせ～

今年度は、会計年度変更の影響で短いため(2013年8月1日から2014年3月31日まで)、主催事業である例会を、例年以上に充実させていきたいと計画をたてております。すでに、この会報で報告として掲載している第6回まで終了していますので、第7回以降への皆様のご参加をお待ちしています。また通奏低音の講座も開始いたしますので、奮ってのご参加、お待ちしております。

報告

第1回例会「チェンバロと私」～小林道夫氏を囲んで～

日時:2013年2月2日

場所:古楽研究会Space1F

チェンバロ協会初代会長の小林道夫氏をお迎えして、記念すべき第1回例会が開催されました。会場には40名を超える聴衆が集まり、約1時間半に渡って演奏とお話を伺う、充実した時を共に過ごしました。そこで話題にあがったランドフスカ自筆サイン入り写真については、後ろに載せてありますのでご覧ください。



小林道夫氏

第2回特別例会「通奏低音の学び方」～フランシス・フィッチ史を迎えて～

日時:2013年1月19日

場所:古楽研究会Space1F

通訳:植山けい

フランシス・フィッチ氏が25年以上の経験と研究の成果を基に執筆した鍵盤奏者のための通奏低音ワークブック“RUNNING THE NUMBERS: A Through Figured-Bass Workbook for Keyboard Players”の出版を受けて、来日中のフィッチ氏に通奏低音の学び方についてレクチャーとレッスンをして頂きました。



レッスン風景

第3回例会

日時:2013年6月30日

場所:古楽研究会Space1F

フィンランドの若手チェンバロ奏者である、A.ハッキネン氏の興味深いプログラムと演奏。その後の奏者、会員で繰り広げられた自由な会話もはずみ、有意義な時間を過ごす事ができました。



ハッキネン氏

第4回例会

日時:2013年9月8日

場所:東京都調布市「スペース“調”」

レオンハルト、ブリュッヘン、ヤコブス、クイケン兄弟らとともに今日の古楽の隆盛を築き上げた巨匠・ロベルト・コーネン氏より、古楽のパイオニアとしてのご経験から、大変貴重なお話を伺い、また演奏もお聞かせ頂きました。



ロベルト・コーネン氏

第5回例会

日時:2013年11月23日

場所:楽器製作工房・クラヴサン工房アダチ

楽器製作工房・クラヴサン工房アダチにて工房見学、調律指導等(講師:安達正浩氏)、そして会場をグラスペレンシュピールにうつして、様々な調律法で聴くチェンバロ演奏会等(出演:戸崎廣乃、細川和子、中井文子、上羽剛史の各氏)が行われ、丸一日たっぷりチェンバロ漬けとなったようです。



名古屋、安達氏工房

第6回例会「調律講座」

日時:2013年11月24日

場所:東京・目白 東京古典楽器センター

講師は、ギターラ社チェンバロ技術者の佐藤俊二氏。午前の部・午後の部は同内容でしたが、受講者の理解度に合わせ、細やかに表現を変えて説明していらっしやいました。受講者の皆様それぞれが、調律の歴史・理論・実践を、ご自身のレベルに合わせて有意義に学ばれた様子が伺われました。

予告

第7回例会

日時:2014年1月22日 | 場所:浜松楽器博物館

浜松楽器博物館の休館日を利用して、貴重なオリジナル楽器見学・試奏可能な見学会が実現しました。貴重な楽器試奏という性格上、今回は正会員20名限定で行います。今後は、もう少し広げ違う形でも出来るかもしれませんが一般会員の方々は、申し訳ございませんが、お待ち下さい。現地集合、現地解散です。ご質問は電話またはメールでお送り下さい。

- ・参加は正会員のみ
- ・現地集合
- ・現地解散、参加費は無し
- ・楽器カタログは館で購入可
- ・集合時間 13:50に浜松市楽器博物館前集合
- ・館長 嶋様同行の約2時間の見学会
- ・参加者は2・3班に分かれて試奏可能の予定
- ・試奏出来る楽器は当日お知らせいたします
(楽器のコンディションによるため)

お申込み・お問合せ:お名前、お電話番号、メールアドレスを、以下のいずれかの方法でお知らせ下さい

- 電話:080-9661-8196
(日本チェンバロ協会お問い合わせ専用電話)
 - お問い合わせ可能時間:
・毎週火曜日 10時~19時
・1月15日~22日 10時~19時
 - e-mail:tomoko.cemb@gmail.com
(第7回例会係。件名に「第7回例会」とお書き下さい)
 - 浜松楽器博物館Web:
<http://www.gakkihaku.jp/info/index.html>
- ※お申込みの締切は1月20日(月)とさせていただきます。



第8回例会

日時:2014年2月23日14:00開演(13:30開場) | 場所:松本記念音楽迎賓館

響きも雰囲気も良い会場で、コンサート仕様の本格的なチェンバロで、日ごろの練習の成果を発表してみませんか? ソロでもアンサンブルでもエントリー出来ます。アンサンブルはモダン楽器の参加も可能です(ピッチは415Hz)

- ・講評:岡田龍之介氏
- ・日時:2014年2月23日(日)14:00開演(13:30開場)入場無料
- ・会場:松本記念音楽迎賓館
東京都世田谷区岡本 2-32-15・Tel:03-3709-5951・
Website: <http://ongakugeihinkan.jp/>
- ・参加費(演奏エントリー):正会員 6500円/一般会員 7000円/一般 8000円



演奏曲目は15分以内でご用意ください。6組~7組の演奏枠を予定しており、定員になり次第募集を締め切らせていただきます。演奏後、岡田龍之介氏より講評が頂けます。当日、会場で20分程度のリハーサル時間があります。当日のリハーサル順などにつきましては、申し込み受付終了後にお知らせいたします。

なお、事前に会場で十分な時間をとって練習することも可能ですので、ご希望の方は松本記念音楽迎賓館(Tel:03-3709-5951)までお問い合わせ下さい。

お申込み・お問合せ

お名前、お電話番号、メールアドレス、正会員/一般会員/一般 の別、演奏予定曲目とおおよその演奏時間を、以下のいずれかの方法でお知らせ下さい。

電話:080-9661-8196(日本チェンバロ協会お問い合わせ専用電話)

お問い合わせ可能時間:毎週火曜日 10時~19時/2月16日~23日 10時~19時

e-mail:melodie@ab.auone-net.jp(第8回例会係。件名に「第8回例会」とお書き下さい)

※演奏をお聴きになりたい方は入場無料、ご予約は要りません。直接会場へお越しください。

日本チェンバロ協会 例会 通奏低音講座 実践編

第1回ヴァイオリンとともに

日時:2014年3月15日(土)17:00~21:00 | 場所:古楽研究会 Space 1F | 講師:上尾直毅 | ヴァイオリン:荒木優子

・受講対象:通奏低音の数字は読めるが、アンサンブルの経験がないか少ない方、よりアンサンブルのレベルを上げたい方、旋律楽器や様式の違いによる通奏低音を学びたい方

※会員でない方の受講も受け付けますが、レベルは以下の初級・中級に準じます。

- ・初級(数字は読めるが、アンサンブルの中での経験が無いか、少ない人)
- ・中級(よりアンサンブルのレベルを上げたい人)
- ・聴講対象:ご興味のある方、どなたでも歓迎いたします!

・実施内容:4時間のワークショップ形式(休憩あり)。受講者は練習してきた課題曲を、プロの旋律楽器奏者と共に代わる代わる演奏しながら、講師からのアドバイスを受けます。同じ曲でも演奏者によって異なる通奏低音の実践を、受講者同士が聴き合うことによっても、より深く学ぶことができます。

・課題曲:①初級 A.Corelli作曲 Violin sonata in F major Op.5-4(全ての楽章でなくても可)

②中級 初級の課題に加え、以下の3曲より1曲をお選びください。

ヴィヴァルディ ソナタop2-3/ルクレール ソナタ3巻op5-1/J.S.バッハ ソナタ長調BWV1021

※レッスンの進行状況によって、自由曲までレッスン出来ない場合がございます。ご了承ください。

・受講料:正会員 8,000円/一般会員 10,000円/一般(会員外)14,000円/

学生会員5,000円(先着順2枠に限る。3枠目からの学生会員は正会員料金となります)

・聴講料:日本チェンバロ協会 正会員 1,500円/一般会員 2,000円/一般(会員外)3,000円

お申込み・お問合せ

お名前、お電話番号、メールアドレスを明記の上、受講/聴講のいずれか初級/中級のいずれか(受講希望の場合)正会員/一般会員/一般のいずれかを選択し、お申し込み下さい。

電話:080-9661-8196(日本チェンバロ協会お問い合わせ専用電話)

お問い合わせ可能時間:毎週火曜日 10時~19時/3月10日~15日 10時~19時

e-mail:info.ronron@gmail.com(例会係。件名に「通奏低音講座 実践編 第1回」とお書き下さい)

予定行事のお知らせ

第9回例会「タッチについて」

日時:2014年2月19日(水)14:00~16:00 | 講師:渡邊順生 | 場所:古楽研究会 Space1F

第10回例会

日時:2014年4月26日(土)午後 | 場所:古楽研究会 Space1F

A.ジルベルライシュ女史&M.ジェステール氏によるマスタークラス

チェンバロの日!2014 「チェンバロと仲間たち」

日時:2014年5月5日、6日 | 場所:松本記念音楽迎賓館、小坂邸

自然の残る多摩川のそばの静かな洋館に、チェンバロとクラヴィコード、バントサイドスピネット、クラヴィシテリウム、クリストフォリピアノなどの仲間たちが大集合!それぞれの楽器を使ったコンサート、楽器説明、試奏コーナーを始め、楽器メンテナンス講座、グレン・ウィルソン氏マスタークラス、マルク・デュコルネ氏講演、渡邊順生氏による楽器ガイド、クラヴィコード協会宮本とも子会長による「イタリア・マニアーノ国際クラヴィコード・シンポジウム」20年間の報告、SPレコード鑑賞、懇親会、学生、愛好家によるフリーコンサート、楽器展示、お庭を眺めながらお抹茶など、盛りだくさん。

1日券会員4000円(一般5000円)中高生以下2000円、小学生以下無料。お待ちしております。



天に舞い戻ったミューズ — 芝崎久美子さんを偲ぶ

正会員 栗形 亜樹子

春の嵐が吹き荒れた昨年4月のある午後、昨年1月に亡くなった故芝崎久美子さんの遺品分けが行われた。主人を思いの他早く失ってしまった大量の楽譜や書籍は、驚く程綺麗なまま、分類され静かに置かれていた。ほぼ全てが新品同様で折り目も書き込みも無い。コピーの楽譜も立派な製本が施され、金や銀のペンで自ら書いたと思われる端正な字体のタイトルが並ぶ。彼女が音符一つ一つに愛情を込め、心から大切にしていた事が、改めてこれらの楽譜から思い起こされ、その丁寧で細やかな音楽作りの原点を垣間見た気がした。私はカリッシミやウッチェリーニのファクシミリ等を譲り受ける事に決め、大切に家へ持ち帰った。これからは私の本棚で、他の仲間達と一緒に長く過ごして頂こう。彼女に負けないように綺麗に使おうと心に誓った。同じく残された1985年堀栄蔵氏製作のチェンバロ(現在都心のあるスタジオに置かれ、いろいろな方に弾いて頂いている)も傷らしい傷もなく、その柔らかな音色から彼女の指先を通じて日々豊かな愛情を存分に受けていた事が容易に想像出来る。こちらに近いうちに新しい弾き手を見つけるだろう。



オリジナル楽器を試奏する芝崎さん

芝崎さんと初めて会ったのが、いつどこでだったのか、実ははっきり覚えていない。同じ学年であった 私達は四半世紀の間、本当にいろいろな事を一緒に行った。パリで、ローマで、ミラノで、新宿で、私達の時間の糸は交差した。それは演奏会だったり、講座だったり、観光や食事、宴会から銭湯にまで一緒に行った(スポーツ観戦こそ一緒にはしなかったが)。しばらく会うことがなくても、何かあれば必ず頼りになり、何でも聞け、相談出来る存在であった。だから今も、この一年程お互いちょっと忙しくてご無沙汰してる…くらいにしかならず、忘れた頃にあの穏やかな声で「しばさきです」と電話がかかってくるような気がしてならない。

日本で古楽の活動をする上での悩みも度々話し合った。ヨーロッパでチェンバロを始め、その後長くヨーロッパに居残ってしまった私とは対照的に、彼女は始めからしっかり両足で日本に立っていた。それ故の苦労や気負いもあっただろう。オランダ留学を終え帰国を決心した頃だったか、いきなり真剣な顔で話し出したのが耳の奥にまだ残っている。多少なり迷いがあつたらしい彼女は、師レオンハルトに「これから私は日本でどうすべきなのか」と思わず問うたら、貴女の音楽を愛してくれる人々を探して味方につけなさいと言われたそうだ。「やっぱり信じる事をやっていくしかないのね。昔のようにパトロンに雇われて、好きな音楽だけその人の為に家で弾いているわけにもいかないし、それが出来れば何て楽な人生だろうとは思うけど…」と自分を論ずような口調だった。その後、彼女が日本の古楽界にどれだけ貢献したか考えると頭が下がる。

訃報を耳にした全ての人が異口同音に言った。早すぎる、若すぎる、これからやりたい事が沢山あった筈なのにと。確かに残った私達はそう勝手に解釈するのだが、人の地上の生涯の意味にはもっと大きな人智では計り知れない計画のようなものがあるように思えてならない。彼女はこの50年、音楽と結婚して、ただひたすら命を捧げ切ったのだ。彼女の一生は見事に完結して一冊の本を見事に閉じたのではないか。その無垢な魂は今故郷に帰って安らぎ、これからは向こう側で大切な仕事に就くのだろう。そしていつも、あの変わらない優しい眼差しで私達の音楽を見守っている事を信じてやまない。合掌。

新刊のお知らせ



楽器製作家、当協会正会員で昨年10月に亡くなられた柴田雄康氏が編集参加していたチェンバロ・クラヴィコードに関する用語の詳細な日本語解説書である「チェンバロ クラヴィコード関係用語集」がこのたび発売されました。

これは、野村 満男・野村 敬喬・柴田 雄康・久保田 彰の共著で書かれ、日本のチェンバロ研究を牽引してきた研究者たちによる集大成の一冊です。編集方針は、以下の項目に基づき、完成前に亡くなった柴田氏が担当した表紙デザインなど最後のアウトプットとして幸い遺されたものを採用し刊行されました。現在、東京コレギウムで発売しておりますので、入手ご希望の方はお問い合わせ下さい。定価4,410円

編集方針

1. 従来の類書を超えて、図版と写真を多数掲載。
2. 古文献由来の用語について典拠を示す。
3. 名エルクカース・ファミリーの現存楽器データを詳述。
4. プレリユード・ノンムジュレ、交差作品など、関連楽曲についても解説。
5. 既刊の「オリジナル楽器便覧」とのリンクにより再現製作にも役立つ仕様。

東京コレギウム

電話:0424-71-2445 FAX:042-471-2455

メールアドレス:colegium@netlaputa.ne.jp

ホームページ:http://www2.ocn.ne.jp/~cembalo

▶当会員であると伝えると割引価格で購入可。

(本体価格の2割引+送料、3,860円)

コラム

ランドフスカ自筆サイン入り写真について

初代の会長に小林道夫氏が就任し、昨年2月の初めには池袋近郊にある<SPACE1F>にて小林氏が「音楽と私」と題した第1回例会がもたれました。そこで、小林氏から貴重な写真の紹介が行われ、現物は今、チェンバロ協会にて保管しています。お越しできなかった皆様のためにも、ここにご紹介しましょう。

ワグダ・ランドフスカ(1879-1959)については、故鍋島元子氏と大島かおり氏がランドフスカの高弟レストウ氏編纂の『ランドフスカ音楽論集』を訳した事もあり、なじみの方も多いと思います。プレイエル社とチェンバロを研究しつつランドフスカ・モデル・クラヴサンを生み出し、その楽器でバロック時代の作品を演奏、そしてSPレコードにも活発にその演奏を残しました。日本でもレコードで多くの愛好家を魅了し、昭和初期のレコード雑誌には多く登場し、その名前と演奏は評判になっていたようです。そのような状況の中、当時のレコード雑誌をにぎわした話があります。

松村澄江さんというジョーキユ醤油問屋醸造元へお嫁に行った方が、昭和10年に敗血症にかかり危篤状態になり生死の境をさまよった際、何か欲しいものは?と問われ、ランドフスカの弾くゴールドベルク変奏曲を聴かせてもらい、生きる力を取り戻し、やがて奇跡的に回復したそうです。その話を伝え聞いたランドフスカは、大変感激して自分のポートレートにメッセージを書き込み、この澄江さんへ送ったものが、その現物が小林道夫氏の手をへて、チェンバロ協会へ寄贈されました。あの、ランドフスカの自筆に触れる事が出来るとは本当に幸せです。(正会員 加久間朋子)



◆事務局からのお知らせ◆

1. 第2回総会にて、これまでご入会時期によってばらつきがあった更新時期を、年度開始月(4月)に揃える案件が採択されました。今年度は2013年7月から2014年3月までの9ヶ月間とし、次は2014年4月からを新年度といたします。したがって、年会費を月割で計算いたしますため、会費額がそれぞれの方で異なって参ります。会員の皆様には事務局より個別にご連絡を差し上げますので、ご案内が届きましたらお手続きのほど、よろしく願いいたします。なお、ご希望によっては次年度分の会費をまとめてお納めいただくことも可能です。

2. 2年間正当な理由なく会費を滞納した方は退会扱いとなります。再入会金は2000円となりますのでご了承ください。万が一、事務局から更新の案内がいつまでも届かない場合にはご一報下さい。

3. 会員の名称は総会で以下のように変更になりました。

お知らせ致します

・A会員→正会員

・B会員→一般会員

・団体会員と法人会員→団体・法人会員

■現在の会員数

正会員 114、一般会員 92、団体・法人会員 6

当協会の運営に当たっては、会員の皆様からいただいている年会費は主に団体を維持するために必要な基本的な経費(通信費等)にあて、例会や主催事業については主として当該イベントの参加費の中でまかなうという方針で行なうことで居住地による不公平がなるべく生じないようにと考えております(詳しくは昨年度の会計報告等をご覧ください)。会則第2条に掲げられた当会の目的「チェンバロとチェンバロ音楽の普及・発展に資すること」への賛同のお気持ちとして年会費をお預かりさせていただいております。今後ともスムーズな会費の納入に、ご理解・ご協力をいただければ幸いです。



日本チェンバロ協会
Japan Harpsichord Society

会報第2号 2014年1月20日発行 発行人: 小林道夫 編集: 運営委員会 (大塚直哉、加久間朋子)

日本チェンバロ協会事務局: 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目44-4 1階

電話: 080-9661-8196 (火曜日の10時~17時に対応)

メール: japan.harpsichod.society.jp@gmail.com

ホームページ: <http://japanharpsichordsociety.jimdo.com>